

～学校・家庭・地域で通じ合う心～

協働通心

令和2年度

第2号

発行元

草津市教育委員会

生涯学習課



雨に映える紫陽花も美しく、さわやかな季節となりました。皆さまお元気でいらっしゃいますか。学校休校中にも関わらず、多くの地域住民のお力添えのもと、地域協働合校を推進していただいておりますことに心より感謝申し上げます。今回は、児童・生徒のいない中、地域コーディネーターの奮闘をご紹介します。

マスク作り



新型コロナウイルス感染症拡大防止のためマスクの需要が高く、使い捨てのマスクがほとんど店頭には並ばない状況の中、ある小学校では、地域コーディネーターの呼びかけにより、地域の方々が3密【密閉・密集・密接】にならないよう工夫を凝らしながらマスクを作成し、小学校や中学校へプレゼントされました。

また、この活動はほかの地域でもボランティアサークルの方々などによって行われており、同じく校区の小学校や保育園へ届けられています。

児童の学習環境を守る

毎年5月になると田植えの体験学習が実施されております。今年は一斉休校のため、事業自体の実施も危ぶまれておりましたが、収穫祭を実施するころには子どもたちが学校に戻っているだろうと、地域の方々や先生方が協力して田植えを実施されました。コーディネーターは、「先生方と支援者が共に作業しながら、お話しできる機会を作ることができた」と喜んでおられました。別の地域では、田植えの時期をずらしていただき、分散登校した5年生に2日間で体験させていただきました。田植えを支援してくださる方にお話を伺うと、児童や保護者が安心できるよう、田んぼに入れる水の量を少なくする、動きに滞留が生まれないよ



うな動線を確保する、危険物がないか事前に確認する。植える時の目安になるテープと目印をつけるなどの工夫をされていると教えていただきました。